

平成26年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成26年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 キアンコウ

学名 *Lophius litulon*

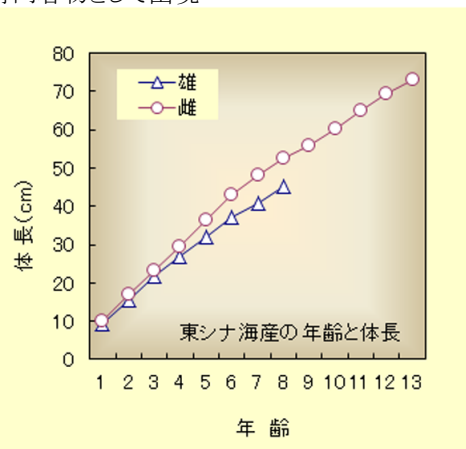
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 不明
産卵期・産卵場: 5～7月(仙台湾周辺)、産卵場は不明
索餌期・索餌場: 周年、水深30～400mの大陸棚から陸棚斜面
食性: 魚類、頭足類
捕食者: 若齢個体がミズウオの胃内容物として出現

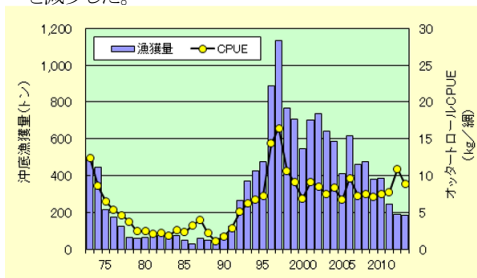


漁業の特徴

沖合底びき網漁業(沖底)、小型底びき網漁業(小底)を主体に、底刺網漁業や定置網漁業でも漁獲されている。福島県や茨城県については1990年頃から漁獲量が増加した。青森～茨城の全県で漁業種類別漁獲量が把握できるのは2000年以降である。海域全体としては沖底と小底を合わせた漁獲は60%程度、宮城県以南では底びき網による漁獲が、青森県、岩手県では刺網、定置網などによる漁獲が多い。

漁獲の動向

太平洋北区(襟裳西海区を含む)沖底の漁獲量は1973年の492トンから減少し、1978～1990年の13年間は90トン以下の低水準で推移した。1991年以降は急増し、1997年に1,133トンに達した。2005～2010年は2006年を除き381～479トンで推移している。2011年以降は、東日本大震災の影響で福島県の操業が休止されたため、183～245トンと減少した。

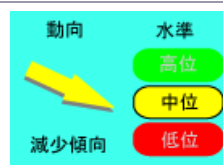


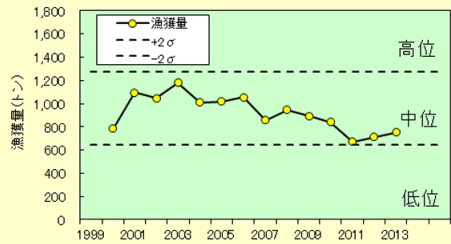
資源評価法

沖底と小底のCPUEの変動傾向には、青森県と岩手県以南で違いがあり、近年は沖底による漁獲の割合は減少し、代表性も低下していることから、福島県以外の青森県～茨城県の2000年以降の漁業種類別漁獲量(2011年以降は震災の影響を考慮して稼働率で引き延ばした数値を使用)から資源状態を判断した。

資源状態

漁獲量は、2000年以降は1,100～1,500トン、2003年以降は減少傾向にある。2011年以降は震災の影響により漁獲量が大幅に減少した。福島県以外の漁獲量は、2001～2006年は1,011～1,180トンで推移し、2007～2010年は843～947トンに減少した。2011年以降は震災の影響を受け大きく減少した。稼働率により引き延ばした2011年以降の値は、670～753トンで、若干増加傾向である。水準は2000～2010年の漁獲量の平均値+標準偏差の2倍を高位と中位の境界、平均値-標準偏差の2倍を中位と低位の境界とし中位と判断した。また動向については2009～2013年の5年の漁獲量の推移より減少と判断した。





管理方策

中位水準、減少傾向と判断したため、現状の資源水準をこれ以上減少させないことを管理目標とした。ABClimitは稼働率で引き延ばした福島県以外の2013年漁獲量と福島県の2008～2010年の平均漁獲量との合計値に0.9を乗じ、稼働率で引き延ばした福島県以外の2011～2013年の3年間の漁獲量の傾きと平均から計算した係数1.03を乗じて求めた。ABCtargetは、さらに0.8を乗じた値とした。

	2015年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	980トン	$0.9 \cdot Ct \cdot 1.03$	—	—
ABCtarget	780トン	$0.8 \cdot 0.9 \cdot Ct \cdot 1.03$	—	—

- ABC算定には規則 2-2)を用いた
- ABCは $ABClimit = \delta_2 \cdot Ct \cdot \gamma_2$ 、 $ABCtarget = ABClimit \cdot \alpha$ で計算した
- γ_2 は、 $\gamma_2 = 1 + k(b/l)$ で計算をし、kは係数(標準値の0.5)、bとlは漁獲量の傾きと平均値(直近3年間)である
- Ctは漁業種類別県別の稼働率により引き延ばした2013年の福島県以外の漁獲量と2008～2010年の福島県平均漁獲量を加えた値
- b、lは稼働率により引き延ばした福島県以外の2011～2013年の漁獲量を用いた

資源評価のまとめ

- 漁獲量の推移から資源水準・動向は中位・減少と判断される
- 東日本大震災により2011年以降、金華山以南の海域で漁獲努力量は大きく減少
- 漁獲努力量の減少により漁獲量は減少したが、資源は低い水準ではない

管理方策のまとめ

- 現状の資源水準をこれ以上減少させない
- 小型魚の漁獲を抑制し成長乱獲を避けることが必要
- 単価の安い産卵期(5～7月)の産卵親魚の保護が必要

執筆者: 伊藤正木・服部 努・成松庸二・柴田泰宙

資源評価は毎年更新されます。